

やまぐちっ子 学力向上だより

第 5 0 号 H25. 8. 28

山口県教育庁義務教育課

全国学力・学習 状況調査の結果

「平成25年度全国学力・学習状況調査」の結果が公表されました。新聞等、報道でも大きく取り上げられ、平成21年度以来の悉皆調査ということで、その結果が注目されています。

今回の「やまぐちっ子学力向上だより」では、平成25年度調査の山口県の状況を中心にお知らせします。各学校の分析や校内研修、保護者への情報提供等の参考として活用してください。

全体の結果

全体の結果については、次のとおりです。(詳しくは別添「平成25年度全国学力・学習状況調査の結果について」を参照してください。)

- 平均正答率を山口県と全国とで比べると、小・中学校ともに、国語、算数・数学のA・Bの全区分で全国平均を上回る結果である。
- 中学校では、平成22年度の小学校6年生時点での調査結果と比較し、伸びている。

教科の結果

- 平均正答数

【小学校】

区分	平均正答率 (%)	
	山口県	全 国
国語A	64.3	62.7
国語B	50.2	49.4
算数A	77.9	77.2
算数B	59.9	58.4

【中学校】

区分	平均正答率 (%)	
	山口県	全 国
国語A	77.3	76.4
国語B	68.3	67.4
数学A	65.5	63.7
数学B	44.2	41.5

この結果は、児童・生徒の努力はもちろんのこと、学校の組織的な取組による授業改善や家庭・地域社会との連携、市町教育委員会の支援など、これまでの学力向上に向けた取組が定着しつつあり、県全体として、その成果がみられたものであると考えています。

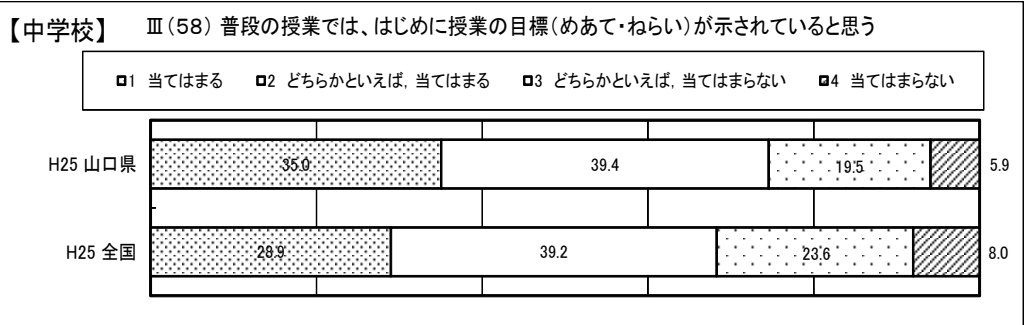
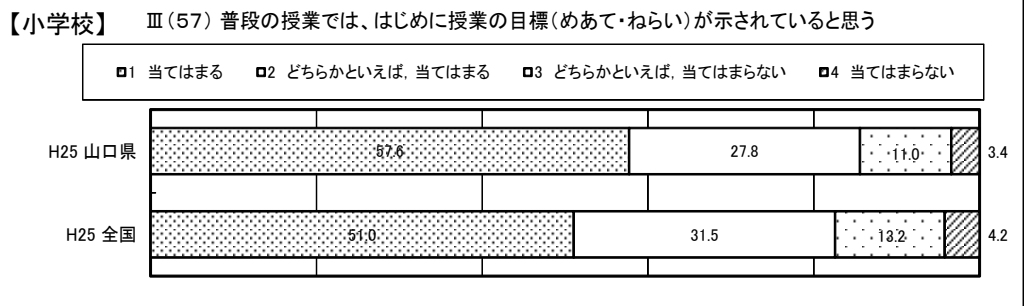
しかしながら、改善傾向にはあるものの、引き続き、課題の見られる状況もあり、今後も今回の調査結果を十分検証しながら、学力向上に向けた取組を行っていくことが重要であると考えています。

学習状況調査の結果

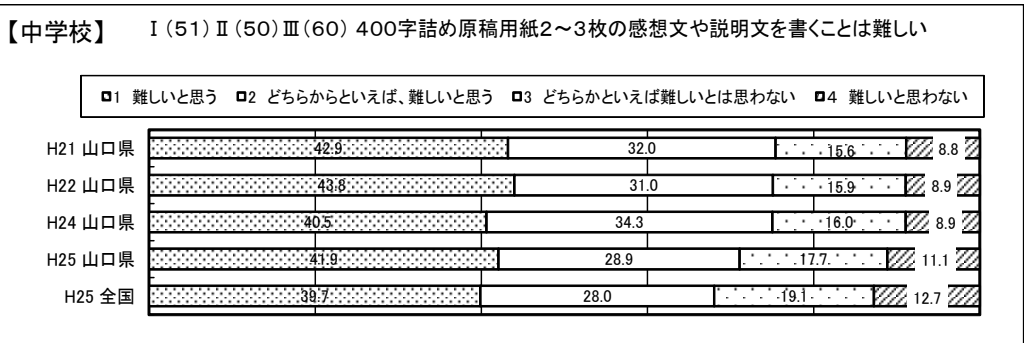
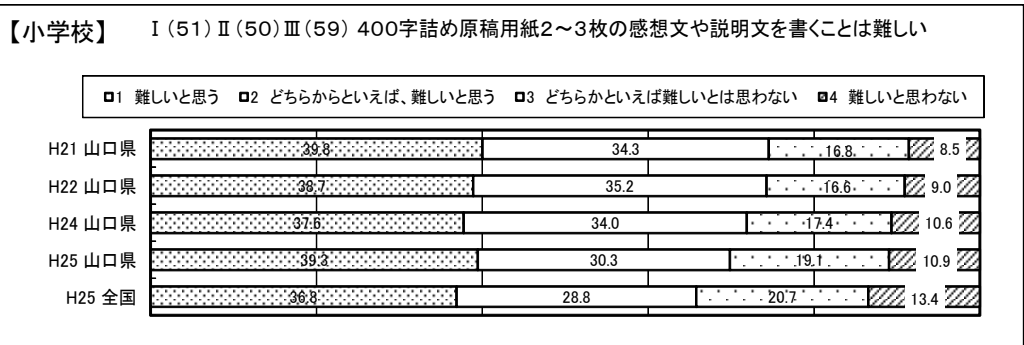


(児童・生徒質問紙から)

- 普段の授業のはじめに、めあてやねらいが示されていると回答した子どもの割合が全国と比べて高い。また、普段の授業で、自分の考えを発表する機会や、友達と話し合う活動があると感じている子どもの割合が、全国と比べて高く、特に中学校では、その割合が年々増加している。



- 感想文や説明文を書くことは難しいと感じている子どもの割合が、全国と比べて高い。



※ 今後、詳細な分析を行い、学力向上だより等でお知らせします。

文部科学省から提供のあった結果をもとに、課題等を再度確認し、各学校の学力向上プランに反映させましょう。

課題の明確化と 具体的な改善策

- 課題となる部分が、どの学年の学習内容であるのかをもとに、当該学年以降の学力向上プランに改善策を位置づける。



本校の子どもたちは、小数の加法が課題ですね。

0.75+0.9の計算は、4年生の学習内容ですね。4年生でしっかり身に付けさせるとともに、5年生の小数の乗法・除法の学習の時にも、加法や減法の場合はどのように計算したか、四則計算を統合的に捉える場面を設定しましょう。



- 解答類型等をもとに課題を細かに把握し、系統立てて学力向上プランに位置づける。



本校の子どもたちは、書くことが苦手ですね。

解答類型を見てみると、自分の思いや考えは書けるようです。他の資料と関連付けて書くことが苦手そうですね。



それでは、1年生から、そのような場面を授業に取り入れていきましょう。「資料から分かること」と、それに対する自分の考えを書く場面を設けるといいですね。

- 具体的な改善策にする。



今までの学力向上プランでは、漠然と「書く場面を授業に取り入れる」としていただけ、もっと具体的な改善策にする必要がありますね。

結果と具体的な 改善策の公表

- 自校の課題だけでなく、具体的な改善策も保護者等に公表する。



これまで、自校の課題を保護者等に公表していたけれど、具体的な改善策も示し、協力を得ましょう。

小・中の課題の 共有

- 小・中で課題を共有する。



中学校でも同じような課題があるのでしょうか？小・中で課題を共有する必要がありますね。